

リズム運動を 取りあつかって

柳原小学校 竹川新太郎

このつて

来につて身体を動かすことは楽しいことです。一年生に入学して、二年生までは、先生たち
の指導の時間など、よく身ぶり遊びや、模倣遊戯などを、しておられるのを、見うけますが、中
年からになると、やらなくなるらしいが、中学年になると今までやっていた、身ぶり遊びや模
倣遊戯が、いつになつても発展せず、おもしろくなくなつてくるからであるう、と思われ

る。子供たちは、この時期に自分の思うまま、感じたままを、表現したいという慾望と、身体
の力があまっています。いつも「うさぎ」だとか「ちょうちょう」の身ぶりや、模倣では、時
々、良いものを作り出されようが、一般児は、きまつた観念的な動きになつて、活発性がうし
なはれるだらう。

この時に指導者が少しでも、進む方法をしめしてやれば、立派なものが出来あがるだらうと思

ひ

この活動

この観念的な動きや、活発性のなくなつた、リズムダンスを、発展させるには、どうしても創作
の活動を考えなければ、ならないと思います。

子供たちとつしよにダンスの創作活動をするためには、色々な方法がもちられるだらうが、
考えられる方法をあげてみました。

身ぶり、模倣表現からの発展

既成作品からの発展

主題による造形からの発展

リズム形による造形からの発展

基本形による発展

音による造形

曲による感じ方の表現

以上色々なことが考えられるが、目的とするところは、体表現により、一つの作品を、完成
させることであると思います。

計画

リズム運動を 取りあつかって

柳原小学校 竹川新太郎

たのび

最近のつて身体を動かすことは楽しいことです。一年生に入学して、二年生までは、先生たちから体育の時間など、よく身ぶり遊びや、模倣遊戯などを、しておられるのを、見受けませんが、中年からになると、やらなくなるらしいが、中学年になると今までやっていた、身ぶり遊びや模倣遊戯が、いつになつても発展せず、おもしろくなくなつてくるからであらう、と思われる。

私たちは、この時期に自分の思うまま、感じたままを、表現したいという慾望と、身体の方がついてまわっているのです。いつも「うさぎ」だとか「ちようちよう」の身ぶりや、模倣では、時々、良いものが作り出されようが、一般児は、きまつた観念的な動きになつて、活発性がうしなわれるだらう。

この時に指導者が少しでも、進む方法をしめしてやれば、立派なものが出来あがるだらうと思ひます。

活 動

この観念的な動きや、活発性のなくなつた、リズムダンスを、発展させるには、どうしても創作活動のことを考えなければ、ならないと思ひます。

私たちとつしよにダンスの創作活動をするためには、色々な方法がもちいられるだらうが、ここでは考えられる方法をあげてみました。

- ① 身ぶり、模倣表現からの発展
- ② 既成作品からの発展
- ③ 主題による造形からの発展
- ④ リズム形による造形からの発展
- ⑤ 基本形による発展
- ⑥ 音による造形
- ⑦ 曲による感じ方の表現

以上色々なことが考えられるが、目的とするところは、体表現により、一つの作品を、完成させることであると思ひます。

結 語

今迄、私は音による造形を取り上げて、子供たちと共に、進んできた。ピアノ、オルガン等、
 デイ楽器による音を、体表現するのである。先ず音階により、表現してみようと思ひ立つ
 である。

ここに、2年生の時からの、授業経過を書いてみた。

四年生になると組の編成替があるので、一応2年間の計画を立てた。

体育の時間は週に3時間である。月に12～13時間ある。2週間に1時間の予定を立て、
 に2時間だけ、ダンスの時間とした。初めの5ちは、ダンスと聞いて、尻ごみしていた男の子
 ちもしかたなしにやつていたが、3年生になつてからは、楽しみになつてきた様です。

(1、2、3……といふのは、時間ではありません。)

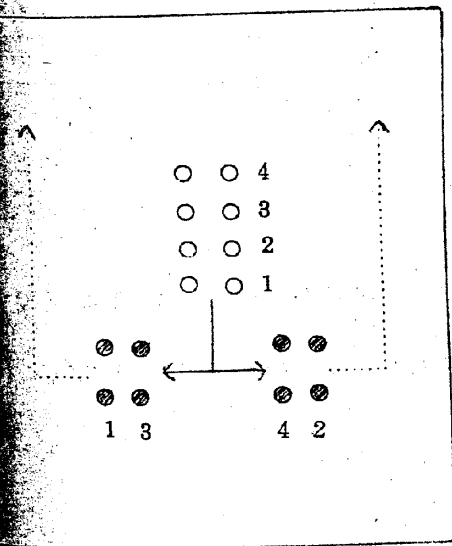
	指 導 内 容	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムをはつきりつかむ ○ 曲の強弱がわかる ○ 基本ステップ <div style="margin-left: 200px;"> <ul style="list-style-type: none"> ウオーキング スキッピング ランニング </div>	○何拍子の曲か
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本リズムの訓練 ○ 行 進 <div style="margin-left: 200px;"> <ul style="list-style-type: none"> 全 音 符 二 分 音 符 四 分 音 符 </div>	○強弱にあわせて
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会のゆぎ 	○おもちゃのマーチ
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行 進 ○ グランド・チェーン <div style="margin-left: 200px;"> <ul style="list-style-type: none"> 二列から四列 四列から八列 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○グランド・マーチ ○スクエア・ダンス
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォーク・ダンス ○ 基本ステップ <div style="margin-left: 200px;"> <ul style="list-style-type: none"> エース・オブ・ダイヤモンド レール・ロード <p>(ツ・ステップ)</p> </div>	

指 導 内 容	備 考
○ 運動会ゆ 5 ぎ	○ 赤いわ、白いわ
○ フォーク・ダンス { みんなのダンス カール・スタートの舞踏会 ○ 基本ステップ (ホッピン グ)	○ グランド・チェーン
○ 音階による体表現	○ 全音符により自由に創作
○ グランド・マーチ	
○ 主題による創作活動	

ンド・マーチ

リズム体育の一つとして、グランド・マーチを、取りあげて、2年生から3年生と2年間にかけ行ってきた。まず自由な姿勢で音楽に乗って、歩かせながら、見てみると、軍隊式な、ひざ高く上げて、歩いていくのが多く、見受けられた。

これを直すために、走らぬ様に、音楽を早くして、歩かせてみた。それが、出来る様になると、子供たちの中には、歩くだけでは満足しなくなり、色々な形を作って歩きまわった。個々別々で美しくないので、2列から4列を作ることを指導した。色々な方法が取られるが、一つの例として



と、わかる様にして、4列を作った。

行進の時には、広い場所を使うため、大声を出さなければならないので、声を出さないでやろと、思い、子供たちにいつでも注意しているようにさせるため、手のあいずだけで始めた。手に注意していると、足の方が、だめになり、足を注意すると指導者の手をみなくなるので、何とかよい工夫はないかと思い、曲をよく聞かせた。そのためには、歯切れの良い2拍子の曲がよかつた。曲を聞いているうちに、曲の強弱、足の左右が自信を持つて、出来るようになった。こうするうちに自然と指

導者を注意する様になり、指導者を注意していないと、どこへ行つてよいのかわからずしたので、と子供たちから話合せて出てきた。

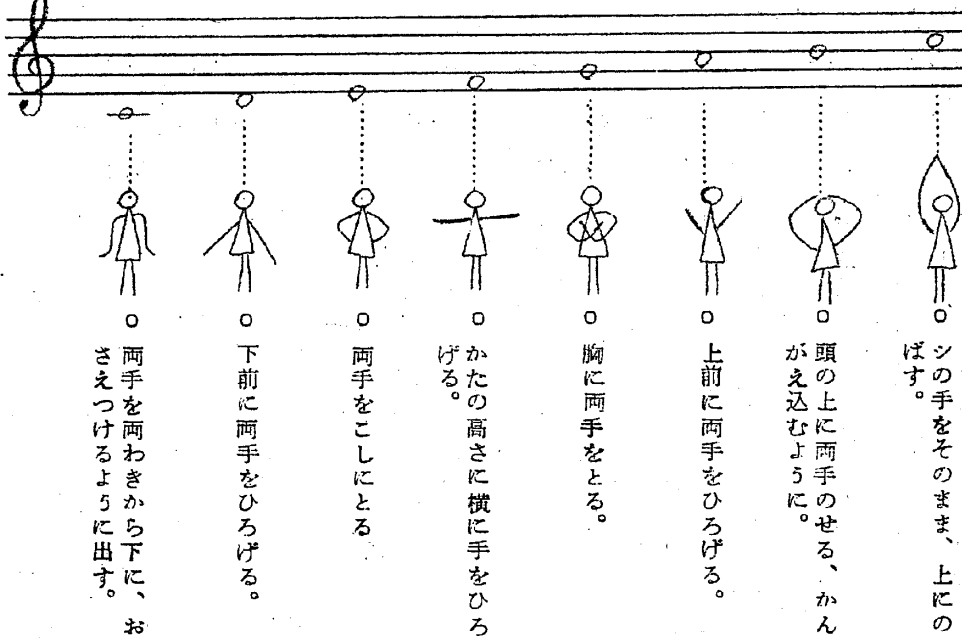
初めの5ちは、よかつたが、なれてくるにつれて、手わるさをはじめ、横の列がそろわなくなってきたので、2人で手をくませた。

2人の5ちはよいのですが、4人8人となるにつれ、手をどう組めばよいのかわからず、まわっていた様子だったが、この頃では、だいぶよくなった様です。

今だに困っている事は、内は小まわり、外は大まわりというのがよく出来ず、まがり角は、いもそろつていないことです。

音による造形

音により体表現するために、既成作品を数多く手がけてきた。音によつて表現していく約束をめぐめて、表現していった。これに難点はない様であった。














注、これは石井漢バレエ研究所で使用しているものを子供たちにあうようにかえたものです。

手の形だけを図に書いてみたが、足は左右左右と始め、高いドの音で両足をそろえる。これ一つの基本形である。

これを子供たちとやつていくうちに、色々な変形を考えたした。

子供たちの考えたものをしめしてみよう。

			
<p>○ 両わきから 下に手をおさえ つけながら右足 を上げる</p>	<p>○ 片足後にあ げ両手を前下 に</p>	<p>○ 立てひざに なり両手をこし にとる</p>	<p>○ 左足を5し ろにあげ両手を 前にのばす</p>
			
<p>○ 片手を上に 片手を下におさ えつける様にす る</p>	<p>○ 立ひざにな り両手を前下 に</p>	<p>○ 左手を上 に右手をこし右足 を右にのばし左 手をみる</p>	<p>○ 立てひざに なり両手を前 にのばす</p>
			
<p>○ たてひざに なり両手を下 におさえつける様 にする</p>	<p>○ 右の足を前 にあげ両手を前 下に</p>		<p>○ 左足前に立 てひざになり右 手前、左手後</p>



○ 左足前に
左足に重心かけ
る



○ 右足を後に
あげる



○ 右足を前に
して立てひざに
なる



○ 左足前に右
足後にあげる



○ 立てひざに
なる



○ 立てひざに
なる



○ 左足前に右
足を後にあげる
○ 目は下を
みる



○ 片足を横に
出し、手は左、
右どちらでも



○ 左足を後に
上げる



○ 右足を前に
あげる



○ 左足前にし
て立てひざをつ
く

の動きだけであまり、興味がないかなと思っていたら、あんがいに子供たちは、興味を引き、
 たちから進んで、色々とポーズを作つていった。自分で経験し、自分で作ったポーズを使つ
 一つの曲をまとめてみようと話しかけ、合奏でやつた「春を待つ」を取りあげてみた。子供
 は階名でうたえるので、すぐにポーズがきまるようであつた。

曲は、

春　　を　　待　　つ

The image shows two staves of musical notation. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat (F major/D minor), and a 3/4 time signature. The melody consists of quarter and eighth notes. Below the staff, the notes are labeled with their corresponding solfège syllables: F, D, D, F, Re, Mi, Fa, So, Mi, Re, Re, Re, Re, Mi, Re, D, So, So. The second staff continues the melody with the syllables: F, D, D, F, Re, Mi, Fa, So, Mi, Ra, Fa, Mi, Re, D. The piece concludes with a double bar line.

である。

の曲を何回もピアノで弾いて、子供たちの頭の中で一応まとめさせた。
 子供たちの中には、知らず知らずに身体を動かしているのが見うけられた。これを見て、「しめ
 」と思った。はずかしがらずに、自然と曲にのり身体が動いたのである。
 子供たちの中から「先生、ドドドレミファソミとあつて、ドドドはゆつくりだからいいけれど
 レミファソミは早くて身体が動かないからどうしたらいいだろう」という質問があつた。どう
 したらいいだろうと話しかけてみると、「初めの音がドで中の音ではミが多く出てくるからミの
 のように考えてすればいいよ。」という声があつた。男の子の声である。他の教科では眠つて
 るような子供たちがうれしそうにやつている。子供たちは、それで考えようということになり、
 色々とポーズを作りはじめた。むずかしい問題を出したかと内心思いながら「自分でやりよ
 う方法でよい。」と話しておいた。しばらくすると、大部分の子供たちが、自分の作品が出来あ
 った様である。7つのグループに分け、グループの中で一番よく出来たと思われる7人の子供
 たちをびだし発表しあつた。

の 作 品

色々出てきた子供たちの作品をくらべてみると、たいして、かわらないが、男の子も、女の子も、いやがらずに、自分でまずいと思つた所をどんだんなおしている。全員で一つの作品を作り上げたのでここに図解してみよう。

春 を



(Dの基本)



(レ、ファの変形)



(レの変形)



(シの変形)

1

左足から左、右、左と三歩あるく

2

右足を横に出し、左足を右足の後手に引く。
手は、上から下におろす

3

左足を前にし立てひざになり両手を肩のはばから横にひろげていく

4

そのまゝ立ちあがり左手を首の後に、右手を前方にのばし右手の方を見る

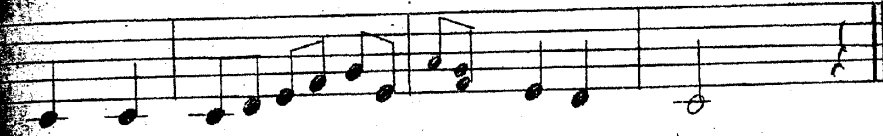
と、子供の作品であるから、不完全なところもあるが、始まりと、終りがきちんと、形に入っている。良く出来た方だと思ふ。

学級会などがあると、自分たちでレコードをさがし男の子と女の子がいっしょになってダンスの創作をしているのが、見られる。

これなどは一例にすぎないが、創作活動を続けていくことにより、授業が、活潑になつてきた。一つの形に入れるのでないので、誰もが進んで参加している。

待

つ



(Fの変形)



(Sの変形)



(Lの変形)



(Dの変形)

5

1の形をとりながら、右足を前にあげて左足をとち

6

三拍のうち、一を5のポーズで二、三で左前方を見る、手は胸に

7

左足を前にして交互しLのポーズでまっ

8

右足をひき、ふてひさになり、Dのポーズでおわり

色々と難点もあり、研究もしなければならないが、子供たちの活潑な動きに現在たすけられて